

日高地区の研究活動

研修部長 新冠町立新冠小学校
校長 中村 等

1. はじめに

日高地区校長会は会員44名の小さな組織ではあるが、平成24、25年度の2か年計画で管内の最重要課題である「学力の向上」に向け、学校経営と教育課程経営を視点とした仮説検証型の研究に取り組んできたところである。

本年度からは、この研究実践のさらなる充実・深化に向け、新たな研究課題を設定し、2か年の研究活動をスタートさせたところである。



2. 研究計画

- (1) 基本主題・副主題
- (2) 研究課題
- (3) 研究の対象・仮説
- (4) 研究の視点・内容

※(1)～(4)については資料1を参照

【資料1】日高地区校長会 平成26、27年度 研究全体構造図

基本主題・副主題	
「新たな知を拓き、人間性豊かな社会生活を築く日本人の育成を目指す学校教育の推進」 ～北の大地から世界を見つめ、新しい社会の形成に向けて挑戦する子どもを育む学校経営の推進～	
研究課題	
確かな学力を育成できる学校づくりに向けた校長としての指導性の発揮	
校長レベル	校長会レベル
研究対象	
学校改善プランを有効に機能させるための校長の指導性	町の学力向上の取組を具体化し、充実させるためのリーダーシップ
研究の仮説	
校長が、より効果的・具体的な学校改善プランを職員間で共有させ、確実に具体化していくための指導性を有効に発揮することで、自校の学力向上の取組が強化されるであろう。	校長会が、町レベルの学力向上に向けた取組を検討・推進することで、町全体の学力向上の取組が強化されるであろう。
研究の視点・内容	
■学校改善プランの【策定→共有→実践→中間評価→改訂→共有→実践→評価】サイクルにおける校長の指導性 策定 ①より効果的・具体的な学校改善プランの策定 ②学校改善プランを具体化するためのシステムの構築 共有 ①教職員や保護者との共有 ②具体化に向けた学校内外の意欲化 実践 ①全国学力学習状況調査結果の分析・活用への一般教員の関与 ②学校改善プランの検証サイクルの確立・機能化 評価 ①自身の指導性の評価・改善 ②実践に対する職員の評価と指導・助言 改訂 ①中間評価結果等の反映 内容 ○学校改善プランの具体化（時期・担当者・内容・数値目標・評価の観点の設定） ○家庭、地域への発信と説明責任の遂行 ○学力向上のための推進組織等の設置 ○学校改善プランの中間評価の実施 ○教職員評価の活用 ○学校改善プラン評価結果の活用	■各校長の取組を支援する組織力 ①校長研修を支える研修機会の設定 ■町の教育リーダーとしての指導性 ①町教委と連携した町としての学力課題の明確化 ②町レベルの学力向上策の検討・提起・推進 ③現職研修の設定・工夫 内容 ○町校長会研修体制の再構築 ○具体的な研修体制の見直しと設定 ○町としての学力向上策の検討・具体化 ○学びの接続の具体化
地区校長会レベル	地区校長会が、学力向上に向けた管内の研究をリードし、確実に推進することで、個々の校長の指導性が向上し、管内全体の学力向上の取組が強化されるであろう。
	■研修実践を支援する組織力 ①各レベルの実践交流や検討・検証のための場を工夫し、有効に機能させる。 ■研修推進リーダーとしての指導性 ①PDCAサイクルを確実に機能させ、研修のレベルアップに努める。 ②管内における学校改善プランの実践状況の検討・検証を進める。 内容 ○実践主体の明確化と実践交流の多様化 ○実践の具体化・共通化に向けた各種フレームの共有 ○学校経営と研修ステージのリンクによる検証 ○先行実践事例の活用

3. 研究方法

- (1) 研究主体を校長・町校長会
地区校長会の3つのレベルに分けて研究を進める。
- (2) 各レベルで研究計画を作成し、評価・改善を図る。
- (3) 校長レベルと町校長会レベルでは、研究の共有性を高めるため、研究計画書や実践報告書に統一フレームを設定し使用する。
- (4) 各校長・各町校長会の研究実践の交流・協議の場として、研修部長研修会及び管内小・中学校長研修会を設定する。
- (5) 1年次目の評価に基づいて2年次目の研究計画の見直しを行い、研究の深化・充実を図る。

4. 研究活動の概要

(1) 研究内容・方法の再構築

これまでの研究実践において、各校長と町校長会との連携が充分にとれていないとの反省から、学力向上策の実践対象を学校・町の2つに分類し、その推進に向けた各レベルでの指導性について研究する内容・方法へと見直しを図った。

(2) 研究対象の焦点化

本研究計画の中核である校長レベルの研究では、研究対象を「学校改善プランのマネジメントにおける校長の指導性」に焦点化させ、校長自身の研究活動と各校の学力向上の取組が確実にリンクするシステムとしている。

(3) 個人研究と組織研究の融合

町校長会レベルの研究は、「各校長レベルの研究を支援する指導性」と「町の教育リーダーとしての指導性」を各町共通の視点とし、町研修部長を中心に組織的な研究を進めている。町レベルでの学力向上策についての協議と合わせ、校長レベルでの研究を計画的に交流・協議するシステムとなっており、学校実態や校長としての経験年数の違いなどへの対応策を検討したり、各校の優れた研究実践を共有したりする機能をもたせている。

(4) 研修機会の多様化

① 研修部長研修会による共有・検討

地区校長会としての組織的な研究推進に向け、各町レベルの研究実践を共有・検討する場として、年間4回の研修部長研修会を開催している。研修計画書や実践報告書などを持ち寄り、実践状況や成果・課題を交流し、検討する場として機能させている。

② ブロック別研修会の新設

夏季休業中に管内を3ブロックに分けたブロック別研修会を新設し、本研修の前提となる学校改善プランを交流した。その中で、各校の学力向上に向けた取組実態が交流・共有され、学校改善プランの今後の在り方についての意見交換もなされた。

③ 管内小・中学校長研修会による検証・改善

本年度の研究実践の交流・検証のために、11月7日（金）、8日（土）に、管内小・中学校長研修会を開催した。新研究計画に合わせ、研究協議の在り方を見直すなど内容の改善を図ったところである。全体会①では、町レベルの研究実践を全会員で共有するとともに、管内的な傾向や課題について協議した。全体会②では、6つの小グループに分かれて各校長が作成した校長レベルの実践報告書を交流した。さらに校種・規模別部会では、全体会での協議を踏まえ、学校改善プランのマネジメントにおける校長の指導性の阻害要因に、校種や学校規模による特徴や傾向が見られるのかとの視点で協議を深めた。また2日目は、



清水町教育委員会の元教育長である横山一男氏に講演をお願いし、学校改革に向けた校長としての意識や姿勢の在り方について理解を深めたところである。

5. おわりに

日高地区校長会は、本年度第57回北海道小学校長会教育研究日高大会を主管させていただき、全会員が運営に係わることで道小の研究活動について一層の理解を深めたところある。管内の最重要課題である「学力の向上」の解決に向けた、校長会としての研究成果が具体的な子どもたちの姿で示せるよう、各会員が自校の学校改善プランを確実に実践していく強い指導性の発揮に向け、引き続き研究活動を充実させたいと考えている。